

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 天王寺区
学 校 名 味原小学校
学校長名 井上 克己

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・味原小学校では、第6学年42名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 平均正答率は、国語・算数のいずれも大阪市平均、全国平均をともに上回っている。
- 平均無解答率は、国語・算数のいずれも大阪市平均、全国平均をともに下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

B「書くこと」に関しては、平均正答率が大阪市平均、全国平均をともに下回っている。今後は多様な言語活動を取り入れ、目的や意図に応じて文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を身に付けることが必要であると考えられる。

[算数]

どの領域においても平均正答率は大阪市平均、全国平均をともに上回っているが、D「データの活用」の領域は対全国比率で上回っている割合が他領域に比べて低い。目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を身に付けることが今後の課題である。

質問紙調査より

○学級での話合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができると最も肯定的に回答した児童の割合が26.8%であった。大阪市平均、全国平均を下回っており、今後も友達との対話的な学習活動を取り入れていく必要があると思われる。

○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表することができると肯定的に回答した児童の割合が61.0%であった。大阪市平均、全国平均を下回っており、目的に応じて主体的に自分の考えを表現したり、伝えたりする活動を授業に取り入れていく必要があると思われる。

○家庭での学習時間についての質問では、「1時間以上」と回答した児童の割合は56.1%であり、大阪市平均を上回っているが全国平均は下回っている。家庭での学習習慣は概ね定着しているといえる。

○学校の授業以外での1日の読書時間についての質問では、「10分以上」と回答した児童の割合は65.9%であり、大阪市平均、全国平均を上回っており、読書の習慣が身に付いてきている。

○学校の授業以外での勉強のためのICT機器の使用時間についての質問では、「30分以上」と回答した児童の割合は26.8%であり、大阪市平均、全国平均を下回っている。今後、一人一台タブレット端末の効果的な活用の仕方について検討する。

今後の取組(アクションプラン)

- 自分の思いや考えを深めたり広げたりし、表現する力を伸ばすことができるように、互いの意見を交流するなどの言語活動を重視した取り組みを学習活動に取り入れていく。
- 個別最適な学びを推進するために、一人一台タブレット端末等のICT機器のより効果的な活用を工夫する。

【 全体の概要 】

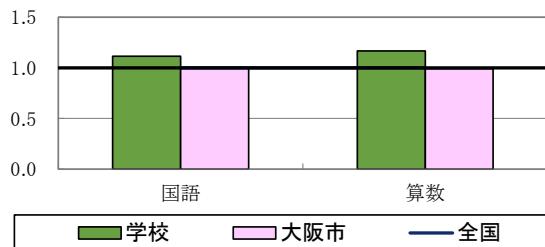
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	75	73
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

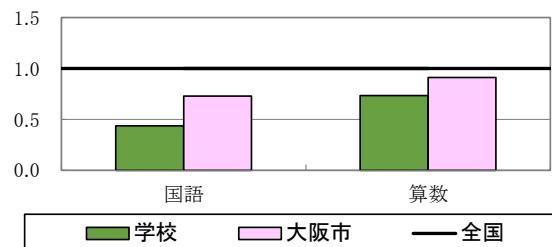
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.1	2.5
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



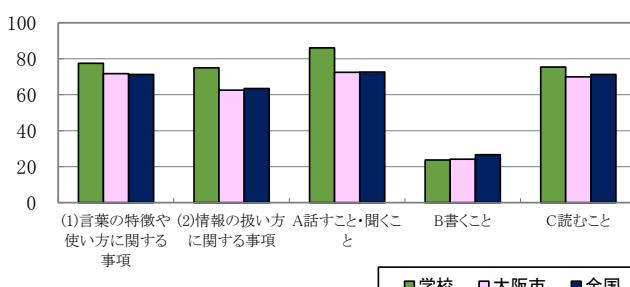
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	77.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	75.0	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	86.0	72.4	72.6
B 書くこと	1	23.7	24.2	26.7
C 読むこと	3	75.4	69.9	71.2

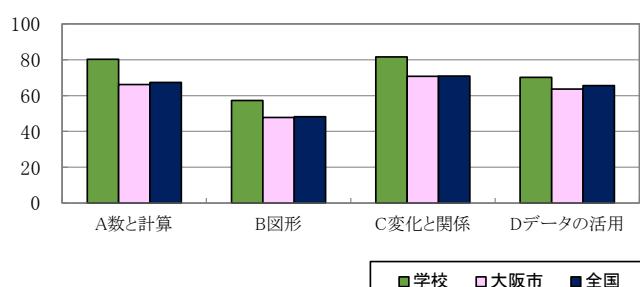
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	80.3	66.1	67.3
B 図形	4	57.2	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	81.6	70.8	70.9
D データの活用	3	70.2	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



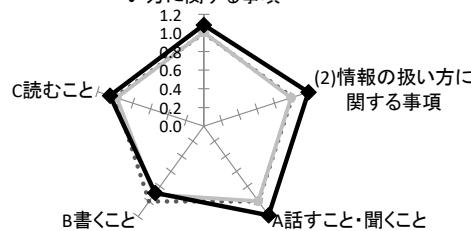
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

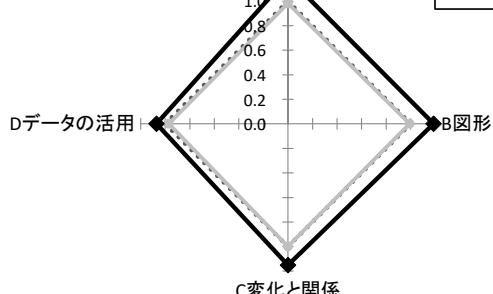
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数 領域別正答率(対全国比)

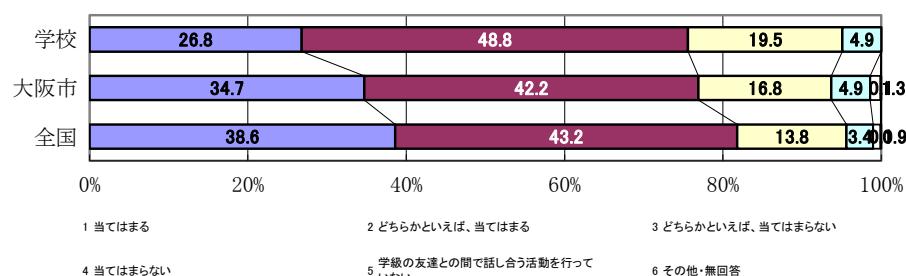
..... 全国
— 大阪市
— 学校



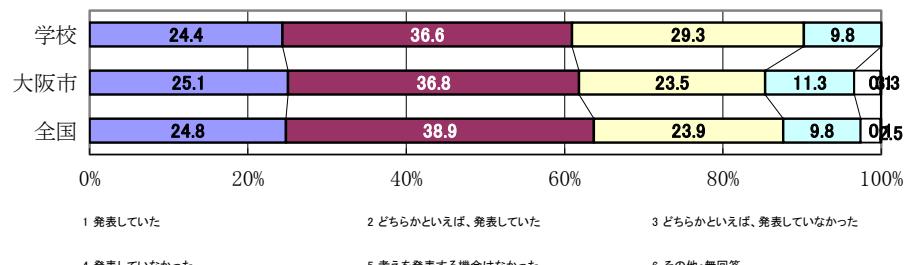
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

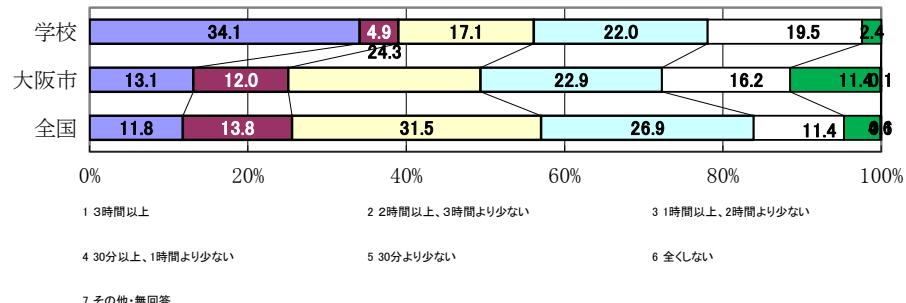
質問番号
質問事項
36
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



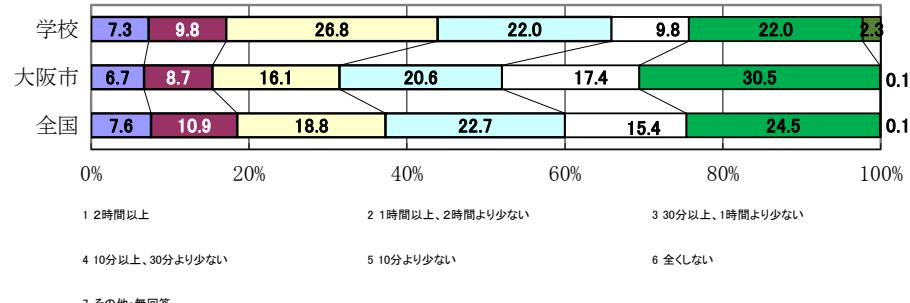
32
(5年生までに受けた)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



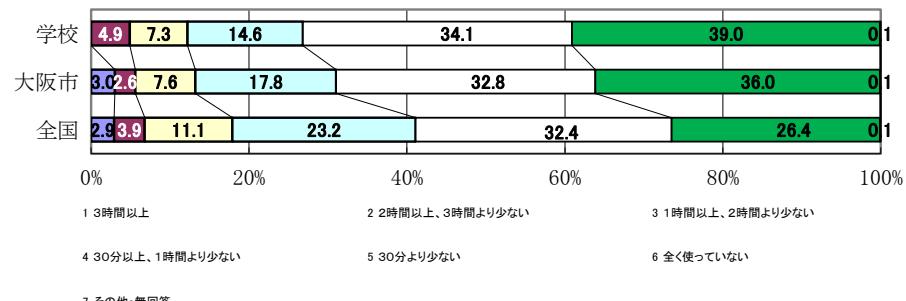
17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



20
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)



31
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

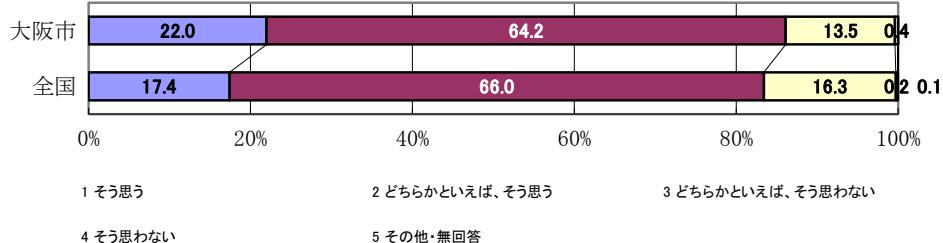
質問番号

質問事項

29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

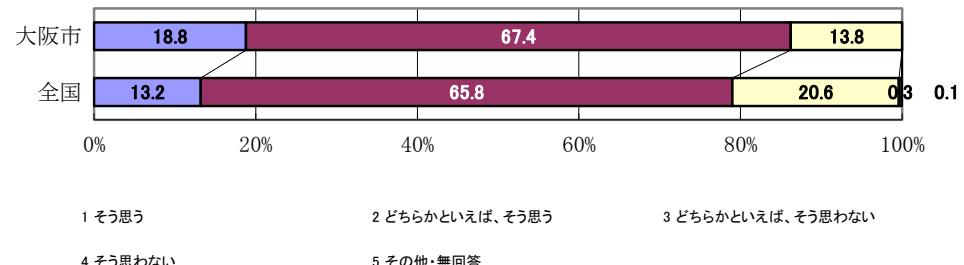
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている

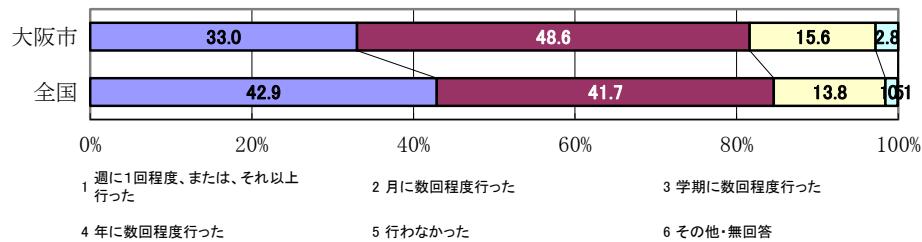
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



36

調査対象である第6学年の児童に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。

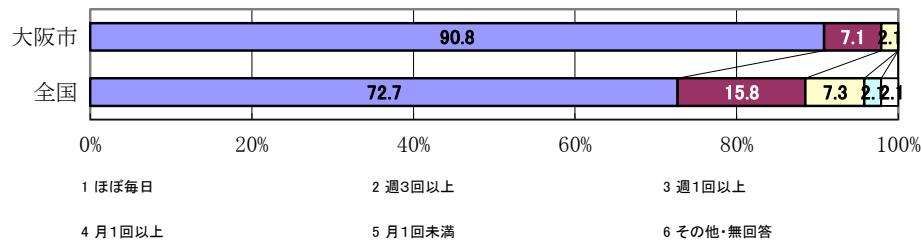
学校 「月に数回程度行った」を選択



52

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

